
いもうとリアリズム

瓜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いもうとりアリズム

【Zコード】

Z6672F

【作者名】

瓜

【あらすじ】

二十歳の誕生日に、妹を喪った「僕」。絶望に似た感情とともにすこすこ「僕」の前に、妹の友人で自称「探偵」の少女が現れる。

「任せてください。妹さんを屠った犯人は、必ずあたしが捕まえて殺します」「探偵のくせに殺すのかよ!」少女が真相に近づいたかに見えた矢先、再び事件がおこり……。

はじまつ、あるいは終焉

これまでの20年間の人生で、僕は一度もリアルなんて感じたことはなかつた。

現実？ なにそれ。食べ物？ それおいしい？ くらい、の。少なくとも、僕の一番古い記憶 佐奈と一緒に蟻の巣に水を流し込んでいた、驚くほど無邪氣で残酷だった、4歳の暑い夏の日、あの頃から。

それでも現実は押し寄せる。

それなりに平凡に暮らしてきた僕にも、それなりに色々な経験をしてきた。

それは受験だつたり、失恋だつたり、親友との喧嘩だつたり、親との確執だつたり。そういうえば軽トラックに撥ねられて救急車で担ぎ込まれたこともある。高校最後の試合前、勒帯を痛めて試合に出られなかつたことも。

まあそれなりに、苦しい現実だつて乗り越えてきた。

それでも、どんな経験をしていようと、涙を流そうとも、僕はずつとこれが現実だなんて思つていなかつた。否 何も、ここじやないどこかに俺の居場所があるはずだ、とか、本当の俺はこんなもんじやないと、例えば自分探しとか、そういう意味ではなくて、だ。

これが「現実」で僕は「桜庭聰介」という人間で、ここ以外に生きる場所なんてなくて……それはわかっているんだ。十分すぎるくらい。

ところが僕にはどこかリアリティが無い。

まるで他人事みたいで、どこか抜けてる。

「怪我したの？ 試合出れないの？」あーあー、かわいそうですね。で？ それが？

なんてつぶやく僕が自分のどつかにいて、心の底から悲しいとか

悔しいとか、感じたことはないようだと思つ。

結局のところ、僕にとって「感情」なんてものは心の上を上滑りしていく、なにか液体みたいなものだった。

きっと、僕はそういうた「リアルを感じるための何か」を胎内で佐奈に全部あげちゃつたんだろう。

一卵性双生児、僕のいもうと、僕の半身、桜庭佐奈に。

佐奈は本当に感情の起伏の激しい子だつた。

嬉しいときに本気で喜び。

悲しい時は本気で泣いて。

辛ければ慟哭し。

楽しければ狂喜した。

誰からも愛される、自慢のかわいい妹。

もちろん、佐奈にそんなことを伝えたことはなかつた。
氣恥ずかしかつたし。

でも思えば、伝えておけばよかつたと思つ。
伝えられなくなる、その前に。

佐奈は死んだ。

僕らの二十歳の誕生日に。

そして僕に、言いつのない感情が押し寄せた。
言葉にできないほど、リアリティに満ち満ちて。

佐奈にあげていた分の感情が、僕に戻ってきたみたいに。

佐奈の分の感情もまた、僕に流れ込んできたみたいに。

そして僕は、初めて、心から、泣いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6672f/>

いもうとリアリズム

2010年10月9日06時47分発行